

# 第25回 滯中入試模試

次の問題の□に当てはまる数を全て解答欄に書いて下さい。

図は正確とは限りません。時間は無制限!!

難しいですがじっくり考えて下さい!!

質問や採点はお気軽に受付までお越し下さい。 縣賞あり!! ※来場者のみ

- 1 E, I, N, R, T, U, V の 7 文字には 1 ~ 9 の整数のいずれかが当てはまり、同じ文字には同じ整数が、異なる文字には異なる整数が当てはまる。  
□には 0 ~ 9 の整数のいずれかが当てはまり、全て同じ整数が当てはまるとは限らない。  
右の筆算が成り立つとき、TURN = □である。ただし最上位の□には 0 は当てはまらない。

$$\begin{array}{r} \text{VER} \\ \text{I} \quad \text{T} \quad \boxed{\text{T}} \quad \text{U} \quad \text{R} \quad \text{N} \\ \hline \boxed{\square} \\ \hline \boxed{\square} \quad \boxed{\square} \\ \hline \boxed{\square} \quad \boxed{\square} \quad \boxed{\square} \\ \hline 0 \end{array}$$

- 2 以下の条件をみたす 1 以上の整数  $n$  について、最も小さい桁数のものは  
□ 個ある。  
•  $9 \times n$  の各位の和は 999。  
•  $n$  の各位は全て 0 でなく、かつ隣り合う位の数字は異なる。

- 3 以下の条件をみたす 1 以上の整数  $n$  のうち、2022 番目に小さいものは  
□ 桁である。  
•  $7 \times n$  の各位の数は 1 の位から順に 3, 9, 2, 1, 1, 2, ... となる。ている。  
(例えば 1293, 93211293, 11293211293211293 など)

- 4 黒板に 9 つの 6 桁の整数が書かれている。黒板に書かれたどの整数も各位の和は 30 で、各整数を一万の位で四捨五入して十万の位までの概数にすると、それぞれ 10 万、20 万、30 万、40 万、50 万、60 万、70 万、80 万、90 万になるとき、黒板に書かれた数の最大公約数は最大で □ である。

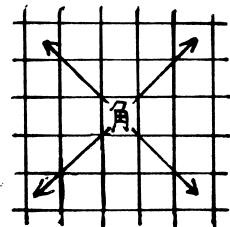
- 5 ヒグマ君は、ある 2 つの位の和が 11 であり、かつある 2 つの位の和が 13 となる 4 衡の整数を選び、みつばち君はこのことを知っている。  
みつばち君は初めに 100 点を与えられている。

2 人は次のような行動を 14 回くり返す。

- みつばち君は「はい」か「いいえ」で答えられる質問をして、0 点以上現在の点数以下の点数を宣言する。  
その後、ヒグマ君は「はい」か「いいえ」で質問に答えて、その返答が「はい」のとき、みつばち君は宣言した点数を得て、「いいえ」のとき、みつばち君は宣言した点数を失う。
- この 14 回の行動の後、みつばち君はヒグマ君の選んだ数を予想し、その答えが間違っていたら点数は 0 点となる。  
みつばち君は、ヒグマ君が選んだ数によらず、最終的な点数を □ 点以上にすることができる。(当てはまる最大の数を書いて下さい)

- [6] 1以上の整数m、nについて、一辺1cmの正方形を縦にm個、横にn個しきつめてできた長方形の1本の対角線で正方形を分割し、できた三角形の面積の総和を $\{m, n\} \text{ cm}^2$ と表すことにする。  
例えば $\{1, 3\} \text{ cm}^2$ は右図中の斜線部の三角形の面積の和であるため、 $\{1, 3\} = \frac{1}{3}$ である。このとき、 $a \times 2022 \times \{a, 2022\}$ が13で割ると1余る整数となるような1以上10000以下の整数aは□個ある。

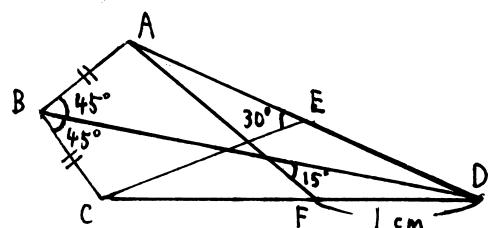
- [7] 縦のマスの数が1～10、横のマスの数が1～10の100種類のマス目があり、これらの中のマス目に将棋の駒である「角」を置く。次の条件をみたしながら置くことのできる駒の数は最大で□個である。  
 ・どのマスも2つ以上の駒が置かれていい。  
 ・どの駒も他の駒の行き先にない。  
 ただし、駒は十分多く用意されているものとする。  
 なお、「角」は右図のように斜めにどこまでも動くことができる。



- [8] 右図において $\angle ADC = 30^\circ$ より小さく、

$AD:BD = 11:13$ 、 $AB = BC$ 、

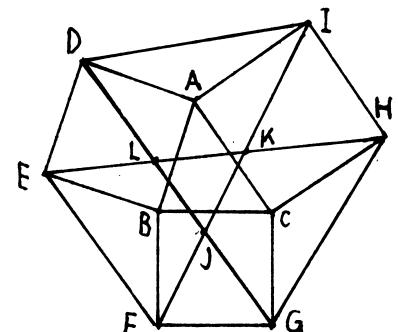
$FD = 1 \text{ cm}$ のとき、 $ED = \boxed{\quad} \text{ cm}^2$ である。



- [9] 右図において四角形ADEB、BFGC、CHIAはそれぞれ三角形ABCの外側にある正方形である。  
 $DG = 13 \text{ cm}$ 、 $FJ = 14 \text{ cm}$ 、 $HE = 15 \text{ cm}$ のとき、

三角形JKLの面積は $\boxed{\quad} \text{ cm}^2$ である。

なお、三辺の長さがそれぞれ $13 \text{ cm}$ 、 $14 \text{ cm}$ 、 $15 \text{ cm}$ の三角形の面積は $84 \text{ cm}^2$ である。



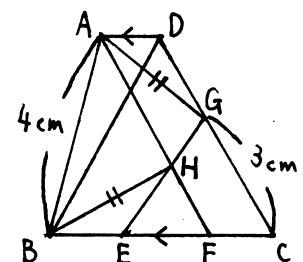
- [10] 右図において $AD \parallel BC$ は平行で、

三角形DBCと三角形HEFはともに正三角形である。

$AG = BH$ 、 $AB = 4 \text{ cm}$ 、 $GC = 3 \text{ cm}$ のとき、

六角形ABHFCGの面積は

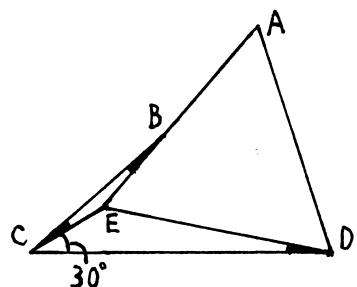
一辺 $1 \text{ cm}$ の正三角形の面積の□倍である。



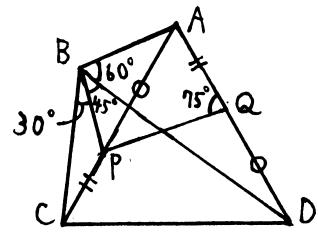
- [11] 右図において $BC + CE = AE = AD$ 、

$\angle BCE = \angle CBE = \angle CDE$ のとき、

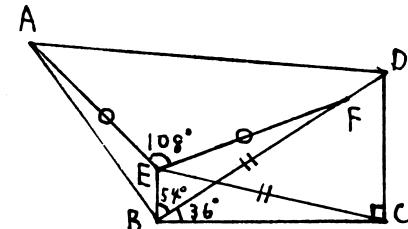
$\angle ADC = \boxed{\quad}^\circ$ である。



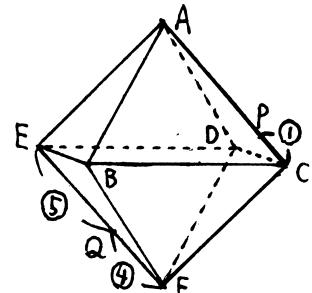
- [12] 右図において  $AP = DQ$ ,  $CP = AQ$  のとき,  
 $\angle ADC = \boxed{\quad}$ °である。



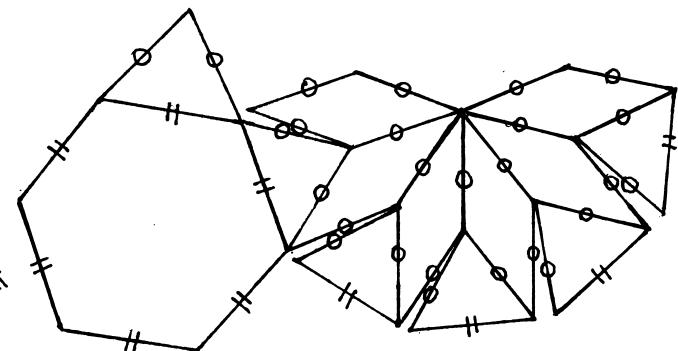
- [13] 右図において  $AB = BD$ ,  $AE = EF$ ,  
 $BF = EC$  のとき、 $\angle ADC = \boxed{\quad}$ °である。



- [14] 右図の正八面体ABCDEFの体積は  $36000\text{cm}^3$  である。  
この正八面体において、点P, Qはそれぞれ  
辺AC, EF上の点で、 $CP:EQ:FQ=1:5:4$ のとき、  
3点B, P, Qを通る平面による  
この正八面体の切断面の面積は  $\boxed{\quad}$   $\text{cm}^2$  である。



- [15] 右図はある立体の展開図で、  
二等辺三角形6つ、ひし形6つ、  
正六角形1つからなる。  
同じ記号は同じ長さを表し、  
6つのひし形は全て  
1cmと3cmの対角線をもつ。  
この展開図を組み立てができる  
立体の体積は一辺1cmの正四面体  
の体積の  $\boxed{\quad}$  倍である。



|   | 1  | 2  | 3  | 4               | 5  |
|---|----|----|----|-----------------|----|
| 解 |    |    |    |                 |    |
| 答 | 6  | 7  | 8  | 9               | 10 |
| 欄 | 個  | 個  | cm | cm <sup>3</sup> | 倍  |
|   | 11 | 12 | 13 | 14              | 15 |
|   | 度  | 度  | 度  | cm <sup>3</sup> | 倍  |

## 作問者

- ①蜂矢 ②加野 ③宮村 ④沖 ⑤蜂矢・丸岡 ⑥三田村 ⑦飯沢  
⑧加野 ⑨松田 ⑩加持 ⑪沖 ⑫加野 ⑬沖 ⑭山口 ⑮佐藤

協力ありがとう!!

毎年恒例のこの企画も今年で25回目。昨年度この企画を担当されていた阪口怜大氏が卒業され、私が引き継がせて頂くこととなりました。

今年度は文化祭に現地参加できない方を対象にOnlineMathContestにてオンライン上で採点を行います。(提出にはユーザー登録が必要です。)オンライン参加では懸賞はありませんが、文化祭期間中(2022/5/2 9:00 ~ 2022/5/3 15:00)に参加した方はオンライン参加者内の順位表に掲載されます。

(URL: <https://onlinemathcontest.com/contests/nadachu2022>)

この灘中入試模試は、時間勝負の要素の強い灘中1日目算数の試験とは違い、非常に難しい問題がすり並んでるので、全く解けなくとも落ちこむ必要はありません。ぜひ時間をたっぷり使って、難問を解き切る喜びを味わって下さい!!

## 作問者からのコメント(ヒントとは限りません)

- ①1問目の覆面算はこれで3回作りました。来年以降も続くといいですね。3年目にしてようやくいい具合の難易度になりました。
- ②条件を言い換えてみましょう。
- ③規則性を見つければ勝ちですが、時間がかかります。
- ④答えを求めたら、その答えの数の性質を考えてみましょう。
- ⑤熊、実はハチミツよりハチの子どもの方が好物。
- ⑥実験データを集めましょう。
- ⑦実は駒をナイトにしても解けますが、証明が本質になります。
- ⑧有名角を活用しましょう。
- ⑨長さの条件を上手く活用できるよう補助線を引いてみましょう。
- ⑩一度予想を立てて、なぜそうなるかを考えてみましょう。
- ⑪なんとか迷路のような問題ですね。
- ⑫意外な結果かもしれません。
- ⑬粘り強さが肝心ですよ。
- ⑭気合いで数学で求めるのは途中で萎えると思います…
- ⑮作問あるある問題を作った後に別解をたくさん思いつく。

★文化祭終了後の採点や質問は下記のいずれかにてお願いします。

<郵送>〒658-0082 神戸市東灘区魚崎北町8-5-1 灘校数学研究部  
(返信用の切手を同封してください)

<Twitter> @nada\_mathclub

採点のみの場合、OnlineMathContestでも可能です。(URLは上に記載)

★教研HP(入試模試の過去問もあります)

<https://nada-mathclub.jimdofree.com>

文責 高校3年 沖祐也